

# 海底火山等の最近の活動について\*

海上保安庁水路部

本会報第45号に報告した以後の南方諸島方面及び南西諸島方面の活動状況は、以下のとおりである。  
ここで報告する期間は、1989(平成元年)年10月20日から1990(平成2年)年3月14日までである。

## 1. 南方諸島

場 所	日 時	調 査 機 関	活 動 状 況
手石海丘	1990 3 14	海上保安庁	変色水等異状なし。
伊豆大島	1990 3 14	同	風早埼で変色水を認めたが範囲は小規模であった。
			泉浜から長根岬の間で4点の湧水を認めた。湧水の温度は周囲の海水より3~5℃高めであった。
			三原山の火口は噴煙が上がっており、火口内の最高温度は180℃と計測された。
新 島	1990 3 14	同	島の海岸線全域に乳白色の変色水が認められた。
神 津 島	1990 3 14	同	多幸湾に乳白色の変色水を認めたが小規模であった。
三 宅 島	1990 3 14	同	三池浜と新鼻付近に乳白色変色水を認めた。火口に少量の噴煙を認めた。
八 丈 島	1990 3 14	同	変色水を認めず。
青 ケ 島	1990 3 14	同	島の北側に乳白色の変色水を認めた。
明 神 礁	1990 3 14	同	変色水を認めず。
福徳岡ノ場	1989 10 20	海上自衛隊	西側180m, 南北1.8km, コバルトブルーの変色水あり。また、海底4か所から泡が出ていた。
	1989 11 17	同	南硫黄島の北東に黄緑色の変色水があり、北東方向に帯状に流れるのを認めた。
	1989 12 15	同	変色水を認めず。
	1990 1 17	同	長さ8kmの薄い黄褐色の変色水を認めた。
	1990 2 20	同	長さ7km, 40度方向に流れる緑色の変色水を認めた。
	1990 3 27	同	東西1.8km, 南北450mの緑色及び茶色の変色水を認めた。
	1990 4 17	同	長さ300m, 幅100m, 240度方向にコバルトブルーの変色水を認めた。
福神海山	1989 10 20	同	変色水を認めず。
日光海山	1989 11 17	同	同
南日吉海山	1989 12 15	同	同
海徳海山	1990 1 17	同	同
以上4か所	1990 2 20	同	同
	1990 3 27	同	同
	1990 4 17	同	同

\* Received 25 July, 1990

## 2. 南西諸島

場 所	日 時	調 査 機 関	活 動 状 況
桜 島	1990 3 8	海上保安庁	変色水を認めず。桜島は活発な活動をしており噴煙により火口内は見えず。
薩摩硫黄島	同	同	島の周りは変色水で囲まれており、褐色の最も濃い変色水は、磯松崎の港内と東温泉付近であった。火口より白い噴煙が出ていた。
口永良部島	同	同	変色水を認めず。火口付近1か所で白い噴煙が出ていた。
口 之 島	同	同	変色水等異状を認めず。
中 之 島	同	同	変色水を認めず。御岳より少量の噴気があり、火口の中及び中腹にも少量の噴気を認めた。
諏訪瀬島	同	同	変色水を認めず。活動は静かで火口の底までよく見えた。所々から少量の噴気があった。
横 当 島	同	同	島のくびれた部分に薄い緑色の変色水を認めた。

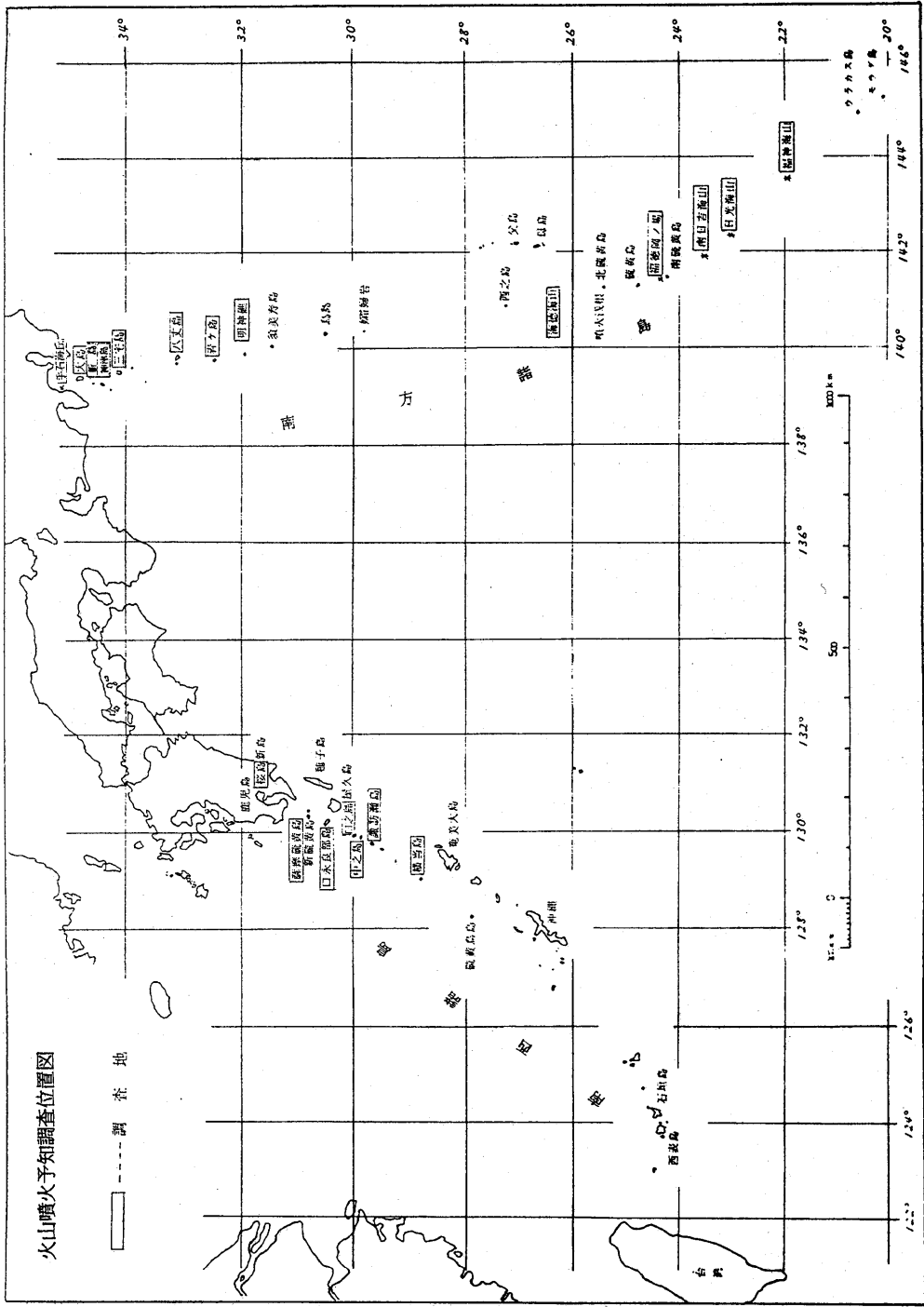
火山噴火予知調査位置図を第1図に示す。

## 3. 伊豆大島北西岸の温度測定

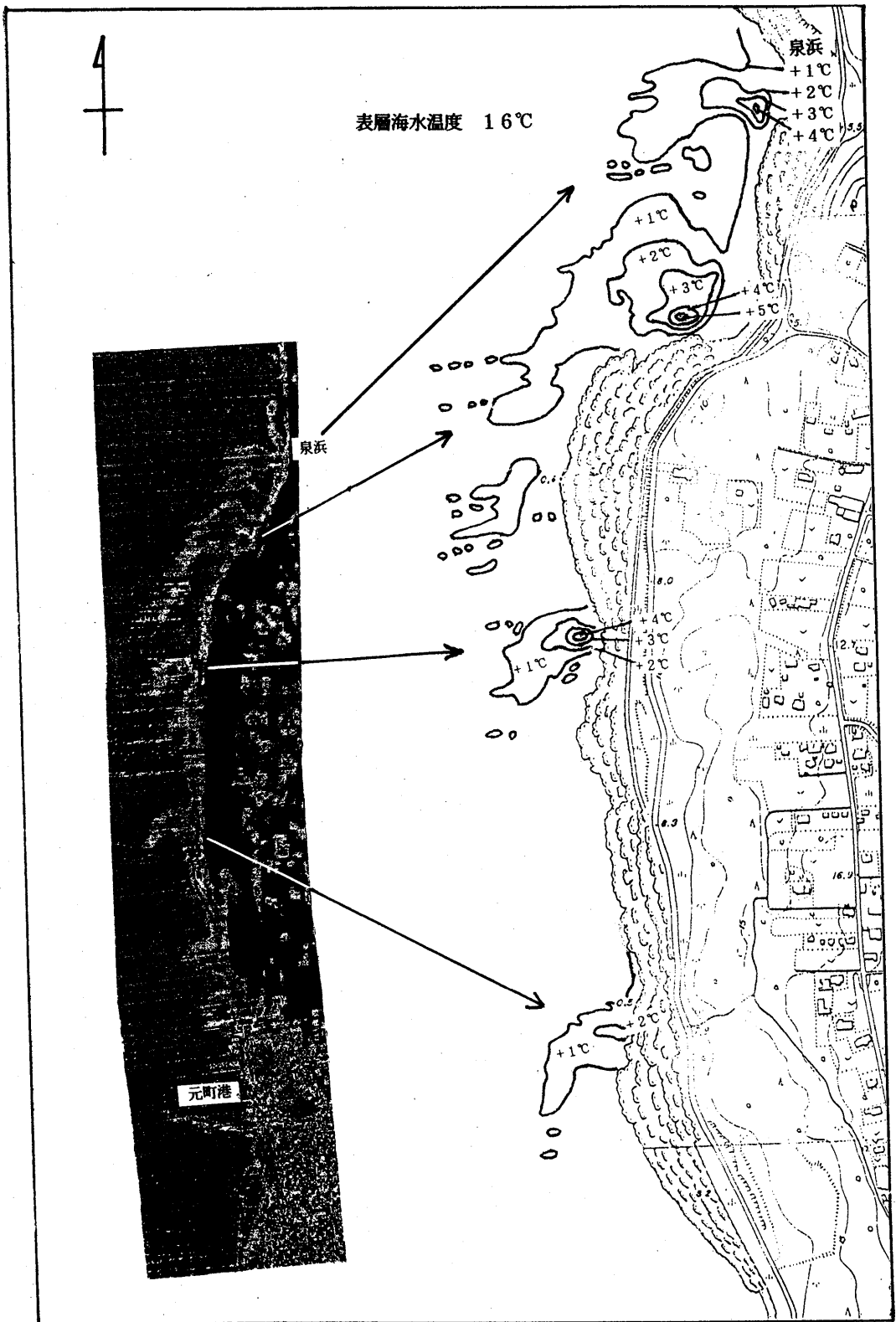
伊豆大島北西岸の元町港から北方の泉浜に至る海岸線を、赤外放射温度計を使用し、海上保安庁の航空機(Y S-11)により温度測定を行った。

調査日は1990年3月14日であり、赤外放射温度計による映像と海面の温度分布を第2図に示した。

この測定結果は、泉浜付近の2ヶ所では周囲の表層海水温度16℃に対し、泉浜前面では+4℃及びその南方約250mでは+5℃の高い水温を示した。また、泉浜より南方約700mの海岸にも+4℃の地点があり、そこから更に南方約450mでは+2℃の水温を測定した。



第1図 火山噴火予知調査位置図  
 Fig. 1 Index of submarine volcanoes and volcanic islands



第2図 赤外放射温度計の映像と海面の温度分布(伊豆大島北西岸)

Fig. 2 Surface temperature observed with thermal video at NW coast of Izu-Osima